



# としょかん ひまわり図書館だより



## ドキドキ わくわく！本との出あ

いろ とりどりに咲く花とともに、学校には明るく元気な声がひびいて  
います。

1年生のみなさん、入学おめでとうございます。2年生から6年生  
のみなさん、進級おめでとうございます。

今年はどんな本に出あえるでしょうか？たくさんの方が、みなさん  
に読んでもらうのを待っていますよ！

## 4月23日は「こども読書の日」

「こども読書の日」は、実は法律で定められています。

『法律って守らないといけないんだよね・・・』

『守らないと「ろう屋」に入らないといけないのかな？』

いいえ、“ぼつ”はないですよ。たくさんの方に  
ほしいと願って作られた日なのです。

そして、4月23日～5月12日は「こどもの読書週間」になります。

今年の標語は「いっしょによもう、いっばいよもう」です。

この標語には「ワクワクする本まだまだあるよ。いっしょに読もう、

たくさんのお本と出あおう」という思いが込められています。

ひまわり図書館でも、この期間中「本の福袋」や「しおり作り」を

計画しています。お楽しみに！



## としょかんりよう ひまわり図書館利用のきまり

### ●本が借りられる時間●

- ・月曜日から金曜日の2時間目と3時間目の間の準備時間
- ・担任の先生が指示した時間
- ・昼休み



### ●図書館のきまり●

- ・教室の前の水道で手を洗い、ハンカチできちんと拭きましょう。
- ・本の持ち帰りは図書バッグを使います。
- ・図書館でさわいだり、走りまわったりしてはいけません。
- ・読んだ本は元の場所に返しましょう。
- ・図書館の本はみんなのものです。大切に読みましょう。
- ・図書館のカウンターは、先生と図書委員しか入れません。



### ●本の貸し出し・返却のきまり●

- ・本の貸し出し期間は、1週間(7日間)です。
- ・本を借りるとき・返すときは、カウンターで処理をします。



### ●その他●

- ・図書館へ行くとき、廊下でふざけたり走ったりはしません。
- ・やぶれている本、ページがはずれている本、汚れている本などを見つけたら自分で修理しないで、そのまま図書館まで持ってきてください。
- ・専用のテープや接着剤を使わないと本が傷んでしまいます。

～みんなの図書館です。きまりを守って使いやすい図書館にしましょう～



## がらがらちゃん(移動図書館)の日

4月30日(金)・5月21日(金)



「子どもでも大人でも、本嫌いの人はいますが、その最大の原因は本の魅力をまだ知らない、いわゆる「本の読まず嫌い」。  
本の中には何でも入っているのに、その広い世界と自分の世界が結びついておらず、本はつまらないと思っ込んでいるだけなのです。」

引用元：StudyHacker こどもまなび☆ラボ

## 子どもと読書の関係

### ちょっと考えてみませんか？



志布志市立図書館の児童書コーナーに1冊の本があります。

本のタイトルは「読書がたくましい脳をつくる」。東北大学の川島隆太教授が、子ども向けに書いた本で、睡眠時間や読書習慣、スマホの使用で脳の動きがどのように変化するかを、脳の画像やグラフを多く使って説明していて、子どもでも読みやすくなっています。

実際に読んでとても印象に残ったのが、「調べもの」を辞書で調べた時とスマホで調べた時の脳の血液量の差です。自分の手を使って辞書を引くときは、脳の血液量が増えて前頭前野が活発に動いていますが、スマホで調べた時は全く働いていなく、それどころかぼんやりしている時よりも血液量が少ないそうです。

スマホで「調べている」「やっている」「勉強している」つもりが、脳は働いていないなど、いろいろと見直すきっかけの1冊になり、親子でぜひ読んでいただきたいと思いました。

右のページは、同書の後書きを抜粋しました。お読みになってみてください。



お父さん、お母さん、そして大人の方々へ

近年、IT技術の進化と反比例して、大人にも、子どもにも読書離れ、活字離れが進行しているといわれています。そのような環境だから、読書をほとんど、さらにはまったくしない子どもたちが存在します。

わたしたちは、読書習慣が脳の発達にどのような影響を与えているかを、MRIという装置を使って計測してみました。三年間の脳の発達を読書習慣の有無で比較してみたところ、“右利きの場合に言語をおもに処理する大脳左半球の前頭前野”と“脳のそのほかの領域”を結ぶ神経線維(情報を伝達する「電線」)の発達に、明確な差があることを発見したのです。読書習慣のないこどもたちの脳の発達が悪くなっていました。

宮城県の仙台市教育委員会がおこなった標準学力調査の結果と、読書習慣の関係を調べてみると、読書習慣のない子どもたちは、平日自宅で二時間以上学習し、かつ六時間以上は睡眠をとらないと平均点を越えてこないことがわかりました。いっぽう、毎日一時間以上、自宅で読書をする子どもたちは、とりあえず三十分程度学習し、六時間以上の睡眠をとってれば、平均点を越えてくることわかりました。

このように、読書習慣の有無が子どもたちの脳発達に大きく影響します。つまり、本を読む子どもに育てることが、彼らの将来を守ることにつながるわけです。

家庭で子どもたちが読書をする習慣をつけるには、みなさんが家庭で読書や活字に親しんでいる姿を、直接子どもたちに見せることがもっとも有効だと、わたしは信じています。

「読書がたくましい脳をつくる 脳科学が見つけた  
みんなの生活習慣と脳の関係」  
東北大学教授 博士 川島隆太 後書き(抜粋)より



